



宝木地区公民館だより

7月29日(日)に行われた宝木っ子まつりの様子です。
ビーチでゲームをした後、網引きをしました。大漁でしたよ。

地区公民館の今後のあり方 公民館長 吉田 亨

今年度も、公民館の各事業とも役員、地域の皆様のご協力をいただき順調に進んでいるところです。

特に、六月には、公民館周辺の樹木剪定ボランティアを募集しましたところ、多くの参加をいただき、樹木を思い切り剪定していただき、公民館内が明るくなり、また景観も良くなりました。大変ありがとうございました。

さて、鳥取市では、「コミュニティを中心とした地域づくり」をまちづくりの基本政策として位置づけ、この度、各地域で『地区公民館の活用策と今後のあり方』についての検討資料(修正案)について説明会が開催されています。

今回、鳥取市が示した「検討資料」の主な内容は下記のとおりです。

① コミュニティ活動の拠点施設

・ 設置位置の明確化
・ 地区公民館を所管する担当部署を、市長部局に設置します。

・ 生涯学習活動の拠点施設としての位置づけは継続します。

② 標準的な「コミュニティ機能」すべての市民が幅広い分野で利用できる活動拠点とします。

・ 防犯・防災・健康・福祉の活動拠点とします。

・ 交流サロン提供します。

・ 各種団体等の活動支援します。

・ 行政情報、行政相談の場を提供します。

③ 『まちづくり協議会(仮称)』の組織化・支援

・ 自治会や公民館運営委員会を中心とした各種団体等で構成する『まちづくり協議会(仮称)』の組織化をサポートします

以上の内容についての意見集約を持って『中間まとめ』を行い、更に地域での話し合い(十月中旬以降)、合意形成等の段階を経て平成二十年度か

らは、地域コミュニティの充実・強化を図るため、『まちづくり協議会(仮称)』の組織化、「地域コミュニティ活性化計画」の作成等の取り組みが始まります。

宝木地区公民館におきましても、地域のニーズに応じた公民館となるよう、皆様のご意見を伺う機会もあろうかと思えますので、宜しくおねがいします。

本物の温泉、水とは

吉村 芳美

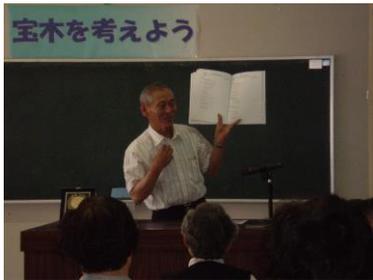
建築板金業を母体に温泉浴場経営と天然水の販売を手掛けておられる、安岡板金社長さんの講演が、六月十日(日)、宝木地区公民館に於いて行われました。

安岡さんは、「自分は口下手で営業能力がない、しかし本当の技術力が有ればやれる、技術が成長の鍵だ」と言っておられました。又、新分野にも目を向けた意欲的な経営を展開しておられるようです。

平成十年九月に本当に湯が出るか不安の中で期待の温泉を掘り当てられました。地下一三〇メートルの深さから四十七度の豊富な湯量だったそうです。

宝喜温泉と名付けられたのは、宝物を掘り当てた喜びと、地域名の宝木となぞらえた、**宝木喜**こび、温泉だそうです。

そしてミネラルウォーターには「ご飯が美味しい」、「アトピーが消えた」、「動脈硬化が改善した」などの声がよせられているそうです。



分の進む道を歩まれ、温泉とウォーターで成功されたのですね。



安岡社
長さんは、しっかりと自分を見つめ、自分の本分の自

初めての鷲峰登山

三谷 葉子

五月二十日、親子三人で鷲峰登山に参加しました。総勢四十七名、元氣よく出発しました。

往復何時間もかかると聞いていたので、小学一年の娘が最後まで登れるか、自分勝手な行動をしないか心配で少し気が重くなりました。

予想通り娘は自由気ままに登り始め、私はいつと「危ない!」「ちゃんと前を見て!」「落ちる!」と叫びっぱなし、ハラハラし通しました。しかし娘の根性はすごい! 弱音を吐くどころか、友達と楽しそうに歌をうたい、元氣いっぱいでした。

道中、つべいすが鳴き、風が冷たく変わるのを肌で感じ、眼下には波しぶきの白色がくつきり見え、とても綺麗でした。持ってきた熊よけのちいさな鈴を鳴らしながらようやく頂上に着きました。

ほっと一息し、満足感に浸ったのも束の間、もう下山の時。



下りは早い、早い、どんどん前に進み、尻もちをつきながら到着。しかしもう限界。足・腰が

体力に自信があった私です。往復五時間歩いたのと、娘を怒るのもうへとへと。二度と登りたくない心境でした。とどめは息子の一言。「お母さん、僕、毎週登りたい」には、ガクッ! 参りました。

がくがくでした。ふもとでは、早く下りた小学生達が元氣よく遊んで待

二〇〇七宝木っ子まつり 綱引きを実施して

山本 範隆

今年度の宝木っ子まつりは、七月二十九日船磯海岸にて綱引きやゲームなどを行いました。参加人数も一〇〇名を超え、天候にも恵まれ、参加者全員で楽しい時間を過ごしました。

はじめに、数人のチームに分かれ「ビーチフラッグ」をしました。その後「宝探し」をしました。ゲームのポイントの高い順に獲れた魚を貰えるルールになっていたので、子ども達は、やる気満々でゲームをこなしていました。

ゲームの後はいよいよ綱引きです。船で綱を仕掛けて、みんなで一斉に綱を引きました。全員で力を合わせて三十分十分かけて、ようやく綱の先端が見えてきました。途中、魚がかかっているか心配でしたが、結果は大漁でした。

ピチピチはねる魚をみて、子ども達は大喜び！フーッと歓声が上がりました。

タイ・キス・セイゴ・アジなど数えきれない程の魚が網に入っていました。きつと夕食には、たくさん新鮮な魚がならんだことでしょう。ちなみに我が家は、アジを南蛮漬けにしておいしく頂きました。

二年ぶりの開催となったこの度のまつりは、事故もなく、「親子のふれあい・友だちとの遊び・地域の人々との交流」が体験できたのではないのでしょうか。

最後に、実行委員の皆様には、大変御世話になり、ありがとうございました。

いちご大福

福西 繁子



短時間で、簡単に作れる。その上見た目は豪華な「イチゴ大福」。この度は、子供クッキングと言ったことなので、時間はかかってでも安全第一に考えてレンジを使用。また、イチゴが包みやすく、見た目も美しい、餅米一〇〇%粉を使用することにする。

当日、調理室満員の参加者に少しびっくり。すでにイチゴの時期は過ぎていたが、細長い見事なイチゴ・頂き物という大小様々な地物イチゴが山と置いてある。出来るだけ沢山作ろうと言ったことで、急遽、餅米・白あんを追加調達。大人・子ども交えて四班に分かれる。

まず、イチゴを半分に切り、白あんと合わせる。可愛い手からあっとい間にイチゴ団子が皿に盛りだくさん。イチゴが長細いため、なかなか丸い形にならないが、これは愛嬌。



大福の皮は、水でといた粉をレンジで固めたもの。これを伸ばして団子を包む。手の平に片栗粉が少ないと、熱い皮が指や手にくっついて大変。悪戦苦闘しながら、大きい・小さいの・形崩れしたもの・すく綺麗なものなど、



色々なイチゴ大福が皿に盛りだくさん。食べていく。たといびつな形でも味は同じ。「自分の作ったのが一番！」と絶賛？しながら一人一個ずつ試食。残り参加者全員、作りたてのイチゴ大福を家族への土産にして解散。

作った大福は、一五〇個位あったかも？二時間があっとい間だったように思います。参加者のみなさん！楽しい時間をありがとうございました。

認知症と歯の健康

歯は大切に

寺嶋 敏子

歯と口の健康について考えてみたいと思います。私たちが求める健康観は、ただ長生きするだけではなく、人

生の最後まで人間らしく有り続けることだと思います。

口は食べ物を取り入れる入口ですし、体内に栄養を送り込む大切な働きをしています。元気で、楽しく生き続けるための大切な役目を果たしているのです。よく噛むことで脳が生き生きと活動をするようになります。口はまた肉体的な健康だけでなく、会話や笑顔、味わいなど人間らしく豊かな心の活動ともつながっていると云われています。



成人の九〇％は口腔内に「歯周病菌」を持っているといわれています。この菌は大変恐ろしいもので、最近話題の認知症の原因の一つ

だということが判ってきました。菌が脳にまわってくるからだということ。認知症以外にも、この歯周病菌の影響を受



肺炎、糖尿病、早産などがあるといわれています。歯の病気を防ぐためには、

毎食後の歯磨きの励行です。歯のよこれを落としきる歯磨きをする。それだけでは不十分なようです。自分で落としきれない汚れをクリーニングする。定期的に歯周病の検査をして貰うことだと思います。これは、認知症の予防にもつながるのではないのでしょうか。

陶芸教室

初田 智美



一月二十七日から七回にわたり、瑞穂地区公民館を会場に陶芸教室が開催され、参加させて頂きました。

以前より興味があった陶芸という事で、とても有意義な教室となりました。

まず土をこねる事から始まり、成形→素焼き→釉薬絵付け→本焼きと作業していきました。

今回の参加者の中には経験者の方もおられましたが、私も含めほとんどの方が初心者で、なかなか思い通りにならず、先生方に手伝って頂く事もありました。

出来上がりは釉薬の濃度が

薄かったせいか思ったような色が出ず、残念でしたが何



とか完成となりました。

今度、宝木地



区公民館でも窯が使用できる様になったと聞きました。次回開催時にも是非参加したいと思いますのでよろしくお願ひします。

公民館活動の様子



編集後記

今年度上期の公民館だよりは内容を欲張った為、例年より少し遅い発行となりました。しかし、その分充実した内容と自負しております。原稿を寄せてくださった皆様、有難うございました。今後とも地区の皆様にご協力をお願いします。